



倉敷市立玉島西中学校

校長室だより

校訓：誠実に たくましく

第20号

令和4年12月22日(木)

冬休みにタブレットを有効に活用しよう！

今年の冬休みは、曜日の関係で例年より少し長いお休みです。年末年始は、日本の伝統的な行事もたくさんありますから、ご家族の皆さんと一緒にそれらを体験しながら過ごしてください。また、楽しい冬休みにするために、すでに冬休みの宿題に計画的に取り組んでいる人も多いのではないのでしょうか？この冬休みはタブレットの持ち帰りも行いますから、「倉敷 Style」のスタートページから、いろいろなコンテンツを体験してみてください。学習の復習をするなら「タブレットドリル」や「スタディサプリ」、楽しみながら様々な学びを深めたい人は「NHK for School」や「おかやま まなびとサーチ」の動画。「Play gram」でのタイピング練習もおすすめです。高校について知りたい人は「おかやま県立高校情報ナビ」やネット検索で調べてみてください。冬休みはタブレットを使って自分の目的に合ったコンテンツを探してみてもいい？（使う前には各家庭の通信環境や通信制限を確認してください。）



玉西 PTA フェス開催！

12月20日・21日の2日間、PTA主催の玉西フェスが開催されました。コロナ禍でPTA活動が制限される中、密を避け、役員の負担を軽減しつつ、懇談に来られた方が気軽に立ち寄れるようにと企画されました。地域の10店舗が参加し、パンやスイーツ、お弁当や総菜などを販売しました。これらの活動で少しでもPTAの交流が深まればと思います。企画・運営に携わってくださったPTA役員の方々、販売にご協力くださった会員の皆さま、ありがとうございました。



玉島西公民館のSDGsセミナーに参加しました！

12月10日(土)の第6回SDGsセミナーに、中学生5人と一緒に参加してきました。今回のテーマは『指で描くチョークアートでインテリアボードを作ろう』で、木くずを圧縮したMDFボードにオイルチョークで絵や文字を描き、インテリアボードを作りました。講師の玉島在住のチョークアーティスト高田さんから、使えなくなった小さいチョークをリサイクルして地域を活性化しているというお話をお聞きしたので、早速、玉島西中にある使えなくなったチョークを集めて、セミナーに参加した生徒から高田さんにお渡ししました。このチョークは、備中玉島みなと朝市のチョークアートイベントをはじめ、様々なイベントで活用されるとのこと。学校ではゴミ扱いされる小チョークで、誰かを喜ば



せることができたり、玉島の活性化に役立てることができたりするとは驚きでした。(興味のある人は、毎月第二日曜日9時から11時に清心町商店街に行ってみるか、「TURURI TOWN チョークアート」で検索すると、FacebookやInstagramで紹介されています)
3学期以降もまた小チョーク集めをしますので、ご協力をお願いします。

中学生人権作文コンテストで、倉敷地区（倉敷・総社・早島）で優秀賞を、岡山県でも優秀賞（山陽新聞社長賞）を受賞した本校3年生が、12月11日（日）に開催された「中学生人権作文表彰式・発表会」で「ジェンダーバイアスのない社会へ」を発表しました。ここで、受賞した作文を紹介します。

「ジェンダーバイアスのない社会へ」

『リケジョ』って呼ぶのはやめてください。

あなたは、このフレーズを聞いたことがありますか？これは、ジェンダーバイアスをテーマにしたあるYouTube動画に出てきた台詞の一つです。

高校生の女の子と彼女の担任の先生が、進路についての面談をしている場面でした。エンジニアになるために理系を選択しようとする彼女に対して、

「女子といえば文系なんだけどね。」

「今流行りの『リケジョ』？ 珍しいわね。」

などと言う先生。女子生徒は立ち上がり、

「『リケジョ』って呼ぶのやめてください。」と訴えます。また、

「なんで女子にだけ理系の場合、『リケジョ』って名前がつくのですか？男子の『リケダン』なんて聞いたことがありません。そこまで女子が理系に進むのが珍しく思われるのが、意味がわかりません。私のエンジニアの夢は男子と同じくらい大事なので、先生にも大切にしてください。」

と、性別で進路を制限されることに対して、異議を唱えたのです。彼女はとてつらそうな表情をしていました。

性別で進路を決めつけられるの？ そんな疑問を抱いたことがある人は、彼女のほかにいると思います。大工さんやパイロットは男性、保育士や養護の先生は女性。そんなイメージのせいでかけがえない夢を断たれてしまうようなことが、本当にあってもよいのでしょうか。

他にも、身近なジェンダーバイアスは存在するのではないかと。そう思った私は、身の回りにある男女差別を探してみることにしました。

一つは学校の制服です。近年、中学校や高校でも、女子のスラックスの着用が認められるようになってきました。しかし、まだ多くの方が「男子の制服と言えばスボン」「女子の制服と言えばスカート」というイメージをもっているため、スラックスを選択しづらいと感じている人もいます。また、このような制度があまり普及していない学校もあり、制服の選択肢はまだ少ないと言えるでしょう。

もう一つは「女子力」という言葉です。私の友達のMさんの口癖は「女子力が高いね。」です。彼女に趣味で作ったお菓子をプレゼントしたり、彼女がけがをしたときにばんそうこうをあげたりすると、いつも「さすが〇〇。女子力高いね。」と言います。でも、これらのことは女性だからできるというわけではありません。料理が好きな男性も、ばんそうこうを持ち歩いている男性もいると思います。それに、料理ができるのは「生活力が高い」、普段からばんそうこうを持ち歩いているのは「用意がいい」と言った方が適切です。そもそも「女子力」は多くの人にとっての「女性らしい」のイメージによって作られたもので、この言葉がジェンダーバイアスの象徴であるともいえます。「女性らしい」という感覚に基づいて使われる「女子力」は、ジェンダーバイアスの象徴であるともいえるかもしれません。

このように、何気ない日常の一コマにもジェンダーバイアスが隠れていました。身の回りにある男女差別をなくすためには、一人ひとりがもっている「男性らしさ」や「女性らしさ」という考え方をかえなければなりません。多くの方が、よりフラットな視点からものを見られるようになるのがベストです。また、「男性」や「女性」よりも「個性」を大切にすることが最も重要だと思います。「男性らしさ」や「女性らしさ」以上に、「あなたらしさ」を大切にしてくれる社会。それを実現するためには、あなたも周りの男女差別に向き合うことが大切だと考えます。日常生活に潜んでいるジェンダーバイアス。あなたも目を向けてみませんか？

中学生人権作文表彰式と発表会

